

人権意識の高い子どもたちを育てるために

佐藤 敦雄

家庭教育応援講座講師
弦打校区 人権啓発推進員

はじめに

「三つ子の魂(たましい)百まで」「すずめ百まで踊り忘れず」ということわざをご存じでしょうか？
「幼いころに身についた習性は、高齢になっても変わらず身についている」ということを表すことわざです。特に保育所や幼稚園等の時期は、小学校・中学校・高校・大学・社会人へとつながっていく人生の土台形成の時期であり、この時期の子どもたちへのかかわりは、生涯にわたり重要です。

人権意識の高い子どもとは

私が考える人権意識の高い子どもとは、次のような子どもたちのことです。

- ♡『差別やいじめをしない子ども』
- ♡『偏見をもたずに友だちとなかよくできる子ども』



「差別」とは、見下しや偏見をもとに、人と人とのつながりを引き裂く行為です。子どもたちの人権を大切にしたい「人権保育」や「人権教育」とよばれる実践では、「なかまづくり」という取り組みが行われています。保育所や幼稚園・こども園、さらに学校等で実践されているなかまづくりとは、「子どもを一人ぼっちにしない」「差別とは対照的なあったかい友だち関係を築く」ことを目的とした取組です。こうした取組は、ほとんどの保育所や幼稚園・こども園、学校等で実践されています。

人権意識の高さに多大な影響を与える「自尊感情」

人権意識の高さに大きく関係しているものが「自尊感情」です。「自分を大切にする」自尊感情の高い子どもは、人権意識が高くなります。まさに、自尊感情は人権意識のベースになるものであり、自尊感情の高さと比例するように人権意識は高まっていきます。

保護者にできる「自尊感情」を育てる手立て

□ 体験させてほめること

家族が台所に立つと「私もしたい」「私にやらせて」というお子様はいませんか？
こうした意欲を大切に、役割をもたせる体験は、成長過程にとって大切なことです。ただ、台所が汚されることは当然ありますが、保護者の支援と我慢をセットにして、片付けまで誘導しながら体験させてください。そして「よくがんばったね」「よくできたね」と、しっかりほめてください。



□ ほめるときに重要なこと

ほめる（評価）基準を「おとな基準」にしないことです。結果ではなく、子どもなりにがんばっている姿（行動）を評価して（ほめて）ください。特に幼児の場合、一般的に自分を客観視することは難しく、おとなからの評価で自分を評価します。

□ ほめる手段として実行してほしいこと

それは「ハグ（抱きしめること）」です。子どもの顔を見ながらハグしてください。

これは年齢に関係なく、お子様が中学生や高校生になっても、保護者が恥ずかしがらずにぜひ実行してください。

ハグは自分が大切にされていることを実感する行為です。例えば中高生になって、ただテストの点数の良し悪しのみで評価せず、努力している姿をしっかりと評価してください。学習意欲を高めることにもつながります。



□ 効果が大きい家族との時間

家族一緒に過ごす時間が多い（家族とのつながりが多い）ほど、自尊感情は高まっていきます。次のようなことを、実行してみてもいいかがですか？

- ♡ 家族で料理をする
- ♡ 家族で読書をする
- ♡ 家族で海や山に行く
- ♡ 家族でスポーツをする など

人権意識の高い保護者に

人権意識の高い子どもを育てるための手立てについてお知らせしてきましたが、こうした手立てを実践しようとする保護者の人権意識も当然重要です。家庭生活の中で、保護者の言動を見聞きしながらお子様は成長しています。保護者自身の偏見（思い込み）に基づく言動が、子どもたちに影響している場合が多々あります。

偏見（思い込み）が人に向けられると、それは「差別（人間関係を引き裂くもの）」につながる場合があります。日ごろから、自分自身の心の中にある偏見（思い込み）に惑わされないように、チェックしていただきたいと思います。その方法を紹介します。

- 1) 誰にでも偏見（思い込み）があると認識しておく
- 2) 「それ本当？」と常に疑問をもつ
- 3) 信頼できる第3者の意見を聞く
- 4) 実際に体験できることはしてみる
- 5) 客観的なデータがあるものは必ず確認する

まとめとして

- ♡ 人権意識の高い子どもたちを育てるためのキーワードは「体験と称賛」です。子どもたちの意欲を尊重し、結果よりも がんばり（努力）行動をほめましょう。そして、ハグを忘れないで。
- ♡ お子様の身近で大切な存在として、人権意識の高い保護者になりましょう。